

論文要旨

氏名	松崎友祐
<p>論文の要旨</p> <p>口腔カンジダ症は <i>Candida albicans</i> によって引き起こされる。口腔内の痛みといった諸徴候は、我々の食べる機能にも影響を及ぼす。通常、カンジダ症の治療には抗真菌剤を用いるが、副作用などの問題があるために効果的な容量を用いることができない場合もある。また、真菌剤の使用は、真菌に対する耐性を誘発する場合もある。そのため、抗真菌剤の代替物の開発が求められている。</p> <p>そこで我々は、精油の抗菌活性について検討した。7種類の芳香植物から抽出された7種類の精油と、ローズマリーから抽出された3種類のケモタイプ精油について、<i>C. albicans</i> に対する抗真菌活性について評価した。7種類の精油は、3つの製造元より各々入手した。</p> <p>その結果、Tween 80 を添加すると、精油の抗真菌活性が数倍上昇することを確認した。検討した精油は、ほとんどが安定した抗真菌活性を示したが、ローズマリーとユーカリは製造元によって抗真菌活性に多様性を認めた。ローズマリーには、CINEOL, VERBENONE, CAMPHOR の3種類のケモタイプが存在する。ケモタイプは、同一の種でありながら含有成分が異なっている。CINEOL は、Time-kill assay により、用量依存的に <i>C. albicans</i> の菌数を減じることを確認し、ローズマリー精油の含有成分が、抗真菌活性にを及ぼしている可能性が考えられた。</p> <p>ケモタイプは、<i>C. albicans</i> に対するローズマリー精油の抗真菌活性を評価する上で、最初に考慮すべきものであると考える。</p>	

